

第62回前島密賞 受賞者 功績概要

◎ 敬称略・年齢は平成29年4月11日現在

推薦機関	氏名（年齢）	住所	職歴等	表彰歴	功績概要	備考
総務省	マシコ シンロウ 益子 信郎 (59歳)	東京都	国立研究開発法人 情報通信研究機構 理事	Nanotech2003 国際ナノテクノロジー 総合展ナノテック大賞 特別賞（団体）	【情報通信技術と生命科学の融合によるあらたな情報通信技術の創出】 データ通信の大容量化など情報通信技術の物理的限界が指摘される中、生命科学・脳機能に着目し、バイオ・脳情報通信という新たな研究領域を開拓し、新原理や新発見につながる研究開発を長年にわたって主導されました。2013年には産学官連携の拠点となる脳情報通信融合研究センターを設立し、脳とICTの融合研究を加速する研究開発を世界に先駆けて開始するとともに、現在注目されているAI研究の実施拠点として重要な役割を担うなど、情報通信技術の推進に大きく貢献されました。	
	ウラツカ セイホ 浦塚 清峰 (59歳)	東京都	国立研究開発法人 情報通信研究機構 電磁波研究所統括	文部科学大臣表彰 科学技術賞（開発部門） H28 他 3件	【航空機搭載合成開口レーダ（Pi-SAR2）の開発とその活用による甚大な災害における貢献】 災害時等に活用できることを目標に、地上の状況を天候や昼夜にかかわらず広範囲に画像として把握することのできる航空機搭載合成開口レーダ（Pi-SAR2）を開発されました。Pi-SAR2は、30cmの分解能と偏波を用いたカラー画像化による高い識別能力、2つのアンテナにより地表面の高さ情報の取得が可能であり、2011年に発生した東日本大震災では、震災翌朝の被災状況を即日Webで公開したほか関係機関に提供し活用されました。2014年の御嶽山の噴火災害時や2016年の熊本地震では、観測しながら関係機関に被災地の画像を送付するなど、災害時の被害把握に貢献されました。これらの実証により、今後の災害にも有用な技術として普及が期待されています。	
	ウメハラ トシヒコ 梅原 俊彦 (59歳)	東京都	国立研究開発法人 情報通信研究機構 電磁波研究所 リモートセンシング研究室 研究マネージャー	日本リモートセンシング学会優秀論文発表賞 H27 他 3件	◎浦塚氏は、Pi-SAR2の開発全体を統括し、設計から製作、運用の責任者として技術的側面のみならず、関係機関等との調整等を含めて研究開発を主導されました。また、実際の災害の発生時には、緊急の観測対応の指揮を行いました。また、10年以上にわたり、内閣府、文科省、気象庁に置かれる地震および火山防災に関する会議等に委員として委嘱され、Pi-SAR2の社会的認知と災害現場での有効活用を推進されました。	
	コバヤシ タツハル 小林 達治 (53歳)	東京都	国立研究開発法人 情報通信研究機構 電磁波研究所 リモートセンシング研究室 主任研究員	日本リモートセンシング学会優秀論文発表賞 H27	◎梅原氏は、Pi-SAR2の機上装置、データ処理装置、及びソフトウェアの開発の全般において技術的側面でチームの中心として開発を主導し、設計開始時の想定以上の性能の実現に大きく寄与されました。また、災害時を含めた航空機観測時の装置の運用にあたり、技術的に高品質かつ効率的なデータの取得を実践されました。	
	マツオカ タケシ 松岡 建志 (48歳)	東京都	国立研究開発法人 情報通信研究機構 電磁波研究所 リモートセンシング研究室 主任研究員	日本リモートセンシング学会優秀論文発表賞 H27	◎小林氏は、Pi-SAR2の前号機の開発から航空機搭載レーダの設計開発を担当され、機器を航空機に搭載するノウハウ等の知見を活かし技術的に高度な装置開発を可能とされたのみならず、故障が少なく安定的に運用できる装置の実現に貢献されました。また、偏波による画像化や高さを計測する技術のデータ処理についての基礎的なソフトウェアを開発されました。	
	ウエモト ジュンペイ 上本 純平 (37歳)	東京都	国立研究開発法人 情報通信研究機構 電磁波研究所 リモートセンシング研究室 主任研究員	日本リモートセンシング学会優秀論文発表賞 H27	◎松岡氏は、Pi-SAR2の開発において偏波を用いたレーダ画像の詳細な解析の経験を生かしユーザ視点を開発に反映することにより、Pi-SAR2データの高品質化を実現されました。装置完成後は、国内各地での検証機材を用いた実験による評価をもとに適切なチューニングによるデータ品質の向上に貢献されました。	
					◎上本氏は、災害時等にデータを迅速に提供することを目的としたPi-SAR2データの機上処理、及びデータ地上伝送パートを担当されました。熊本地震等の実際の災害時において、ほぼリアルタイムでの地上データ伝送を実現されました。さらに、高さ計測機能を応用した独自のデータ自動識別処理方法の開発、並びに過去データとの比較処理手法の開発を進め、被災個所の早期同定等に貢献されています。	

推薦機関	氏名（年齢）	住所	職歴等	表彰歴	功績概要	備考
日本郵政(株)	ナカガワ マサル 中川 勝 (68歳)	石川県	(元)郵便事業(株) 北陸支社長	総務大臣表彰 (事業優績) H19	<p>【事業業績】</p> <p>昭和42年4月、郵政省に採用され、平成21年3月、郵便事業株式会社北陸支社長を最後に退職されるまで、42年の長きにわたり、常に旺盛な責任感と情熱をもって職務に精励し、郵政事業の発展に多大な貢献をされました。</p> <p>日本郵政公社北陸支社郵便事業部長在任中、ゆうパックリニューアル（平成16年10月1日）において、管内の集配局で午前中にお預かりした同一県内あてゆうパックを当日中にお届けするサービスを全国に先駆けて展開し、利用拡大に尽力されました。</p> <p>金沢中央郵便局長在任中は、環境マネジメント責任者として効果的な設備機器の運転によるデマンドコントロールを推進し、環境負荷削減及び経費節減に図られました。</p> <p>さらに、郵便事業株式会社北陸支社の初代支社長に就任し、「区分機エキスパート」や「JPS改善要員」等の施策を積極的に展開し、作業方法の改善や能率向上を指導し、効率的な業務運行及びお客さまサービスの向上に寄与されました。</p>	
	オカ スグル 岡 秀 (69歳)	愛媛県	(元)松山中央郵便局長	総裁表彰 (事業優績) H18	<p>【事業業績】</p> <p>昭和41年4月、郵政省に採用され、松山中央郵便局長等の要職を経て平成20年3月に退職されるまで、42年の長きにわたり専心職務に精励し、郵政事業の発展に多大な貢献をされました。</p> <p>四国郵政局保険部管理課長、四国支社総務部総務課長、松山西郵便局長等を歴任され、いずれにおいても管理者としての責務を十分認識し、職場環境の改善を図るためには職員同士の自発的な協力体制の構築と業務知識の向上が必要であるとして、日々の仕事の中から生まれる改善提案を積極的に取り入れる等、業務運営の基盤づくりに尽力されました。</p> <p>特に、松山中央郵便局長在任中は、管内を代表する郵便局の最高責任者として、卓越した統率力をもって管理者、役職者を取りまとめ、自覚と責任を持った社員の育成に尽力し、四国管内の牽引的な役割を果たす郵便局づくりに努められました。</p>	
	マツザキ ヨシアキ 松崎 義昭 (67歳)	北海道	(元)名寄錦町郵便局長 (元)全国郵便局長会 理事	社長表彰 (事業優績) H26	<p>【事業業績】</p> <p>昭和49年4月、郵政省に採用され、名寄錦町郵便局長を最後に退職されるまで、41年の長きにわたり、一心不乱に職務を全うされ、郵政事業の発展に多大な貢献をされました。</p> <p>北海道北上川地区連絡会地区統括局長、主幹地区統括局長等を歴任され、強い責任感と行動力を持って、北海道管内の営業・業務両面で多大な貢献をされました。また、局長を対象とした各種研修会を積極的に開催し、後継人材の育成等に尽力されました。</p> <p>さらに、全国郵便局長会理事等として、郵政グループの株式上場を見据え、郵便局が「トータル生活サポート企業」としてお客様や地域・社会に貢献するネットワークへ発展していくことを目指し、的確な指示と献身的な取り組みを行って全国の郵便局をまとめられました。</p>	

推薦機関	氏名（年齢）	住所	職歴等	表彰歴	功績概要	備考
日本 電 信 電 話 株	オキミ カツヤ 沖見 勝也 (73歳)	東京都	(元)日本電信電話株 常務取締役 (元)NTTコミュニケー ションズ株 副社長	第53回電気通信協会賞 H24 他 3件	【事業業績】 昭和41年4月、日本電信電話公社入社、日本電信電話株常務取締役を経て、平成11年7月、NTTコミュニケーションズ株代表取締役副社長に就任。同18年6月、同社顧問を退任されるまで要職を歴任。この間、日本国内通信網のデジタル化の実現に大きく貢献し、現代のインターネット社会の礎を築かれました。12年間に亘ってCCITT日本代表として活躍され、草創期のISDN 並びに光ファイバー通信方式の国際標準化のリーダーとして世界統一仕様の確立に成功されました。 また、NTT史上初代の国際事業部長として国内外で精力的な営業活動を展開してNTTグループの国際通信事業を立ち上げ、国民生活の利便性向上に大きく貢献されました。	
	アベタ サダユキ 安部田 貞行 (46歳)	神奈川県	株NTTドコモ無線アクセ ス開発部 担当部長	第27回電波功績賞 総務大臣表彰 (株NTTドコモ 高度化 C-RAN開発グループとして 受賞) H28 他 1件	【効果的なLTE-Advancedの展開を実現する高度化C-RANの実用化】 移動通信の高速・大容量化を実現するLTE-Advancedを効果的に導入・展開することを目的に、C-RAN(Centralized Radio Access Network)の特徴を活かした新たな無線アクセスネットワークアーキテクチャを考案し、それを実現する高度化C-RAN装置の開発と実用化によって、人口密集地域等での繋がり易さの改善など、より円滑で快適なモバイル通信環境の提供を実現されました。	
	トクヒロ ナリヒト 徳弘 徳人 (52歳)	神奈川県	株NTTドコモ移動機開発 部長	第27回電波功績賞 総務大臣表彰 (株NTTドコモ 高度化 C-RAN開発グループとして 受賞) H28 他 1件	◎安部田氏は 3GPPにおけるLTE-Advanced技術規格の早期策定に向け、国際標準化団体3GPPへ寄書を入力するなど積極的な寄与を行うとともに、LTE-Advancedの標準技術に追加する形でC-RANの特徴を活かした新たな無線アクセスネットワークアーキテクチャとして高度化C-RANアーキテクチャを考案されました。 ◎徳弘氏は これまでのモバイル端末開発の経験を踏まえ、伝搬路モデルの異なるマクロセル、スモールセル間でのCA(Carrier Aggregation)の効果を最大化するために、端末における周波数、タイミング測定方法、およびその報告方法などの仕様作成に貢献し、環境に応じたスループットの向上を実現されました。	
	ワタナベ ヤスユキ 渡邊 靖之 (50歳)	神奈川県	株NTTドコモ無線アクセ ス開発部 担当部長	第27回電波功績賞 総務大臣表彰 (株NTTドコモ 高度化 C-RAN開発グループとして 受賞) H28	◎渡邊氏は 安定した快適な通信サービスの提供のために従来マクロセルと同じモビリティ特性を維持しつつスモールセルの容量拡大を同時に実現することの重要性を踏まえ、高度化C-RANにおける通信品質を最適化するためのセルの追加・削除等の制御方法を開発されました。 ◎島津氏は 高度化C-RANを実現する基地局装置に必要な装置の仕様として、従来数セル程度の収容を実現する装置に比べて10倍以上の能力を有し、多数のセルを同一の装置に収容する集約型無線基地局(C-RAN)装置であること、LTE-Advancedの技術とC-RANの特徴を活かし、複数のセル間でCAを行うことができること、などの主要な技術仕様を含む全装置仕様の策定を主導し、基地局装置開発を実施されました。	
	シマヅ ヨシツグ 島津 義嗣 (43歳)	神奈川県	株NTTドコモ無線アクセ ス開発部 担当部長	第27回電波功績賞 総務大臣表彰 (株NTTドコモ 高度化 C-RAN開発グループとして 受賞) H28		

推薦機関	氏名（年齢）	住所	職歴等	表彰歴	功績概要	備考
日本電信電話(株)	キノシタ ケイスケ 木下 慶介 (38歳)	京都府	日本電信電話(株) コミュニケーション科学基礎研究 所 主任研究員	日本音響学会 技術開発 賞 H22 他 3件	【残響制御技術Revtrinaの開発と実用化】 音（音声や音楽）は人の生活の中心をなす重要なメディアであり、残響は、その品質を左右する最大の要因の一つです。このため、音に含まれる残響を自在に制御する技術（残響制御技術）の実現は、音に関わるサービス提供者（TV・映画制作、音声通信・音響機器製造など）から長く渴望されていました。本研究開発は、これを世界で初めて実現し、プロ用音響編集ツールや業務用・民生用音響機器への導入に大きく貢献されました。この開発技術は、国内外（映画制作スタジオなどを含む）に普及し、その功績は産業界からも高く評価されています（H24日本オーディオ協会大賞を受賞）。	
	ナカタニ トモヒロ 中谷 智広 (50歳)	京都府	日本電信電話(株) コミュニケーション科学基礎研究 所 主幹研究員・上席 特別研究員	日本音響学会 技術開発 賞 H22 他 3件	◎木下氏は、 研究開発を中心的な立場で推進され、研究開発の初期においては、マルチステップ線形予測を用いた残響制御法を構想し、世界に先駆け残響制御の理論を確立されました。また、技術の実用化段階においては、実証実験で得られた知見を基に理論を実用技術に昇華させ、実用技術の確立・普及に貢献されました。 ◎中谷氏は、 音声信号の残響制御に関する様々な予備検討（2005年電子情報通信学会 論文賞受賞等）で知見を蓄積しており、マルチステップ線形予測を用いた残響制御の理論の構想にあたり、共同研究者として多くの指針を与えられました。また、各実用化案件に関連する技術開発の陣頭指揮を執ることで、新分野における実用化を迅速に成し遂げられました。	
	ミヨシ マサト 三好 正人 (59歳)	石川県	(元)日本電信電話(株) 金沢大学 教授	日本音響学会 技術開発 賞 H22 他 5件	◎三好氏は、 本業績の実現にあたり、マルチステップ線形予測を用いた残響制御の理論は、同人が考案した逆フィルタ処理に基づく残響制御法（1989年 IEEE ASSP Society's Senior Awardを受賞）に下支えされるものであること、さらに音響信号処理の第一人者として、理論や実用技術の構築に多くの示唆を与えるなど、本業績の実現にあたり重要な貢献をされました。 ◎久保田氏は、 TV・映画制作業界における専門家として、技術開発の方針、実用技術の満たすべき仕様、ソフトウェアの提供形態等について重要な指針を与えました。丹念な実証実験を繰り返し行うことで実用技術の完成度を高め、その技術がプロ業界へ広く普及するための礎を築かれました。	
	クボタ トシユキ 久保田 敏之 (46歳)	神奈川県	NTTラーニングシステムズ(株) コンテンツ事業 部制作技術部サウンド セクション 主査	日本音響学会 技術開発 賞 H22 他 3件	◎遠藤氏は、 業務用・民生用音響機器にむけた実時間残響制御技術の開発と普及において重要な貢献を果たされました。音響機器はその用途ごとに充足すべき仕様（実時間性、許容される演算量・メモリ量等）が大きく異なるため、各実用化案件における要請に応える仕様の的確に示し、それに向けた実用技術の開発と実証実験を助けることで、技術開発を迅速かつ的確に導き、民生用オーディオ機器としての実用化が可能となりました。	
	エンドウ マコト 遠藤 真 (61歳)	神奈川県	NTTエレクトロニクス(株) (一社)日本オーディオ 協会 理事	文部科学大臣表彰 科学 技術賞 H19 他 2件		

推薦機関	氏名（年齢）	住所	職歴等	表彰歴	功績概要	備考
日本放送協会	ヒロセ テツオ 廣瀬 哲雄 (75歳)	東京都	(元)日本放送協会 大阪放送局長 (株)アール・コンテンツ・センター エグゼクティブ・プロデューサー	芸術選奨文部大臣賞 H元年 他 2件	【文化振興】 昭和40年4月にNHK入局、報道番組のディレクターとして、政治・経済・社会の課題に果敢に取り組み、編成局長、大阪放送局長を歴任して平成14年6月に退職されるまで、時代と真正面から向き合う番組を多数制作されました。 NHK特集「調査報告 チェルノブイリ原発事故」、NHKスペシャル「政治は改革できるか～リクルート事件の衝撃～」 「天安門・激動の40年～ソウルズベリーの中国～」など、歴史的な出来事をクイックレスポンスで取り上げ、深く考察していく現在の報道番組のスタイルを確立。平成5年には担当部長として『クローズアップ現代』を立ち上げられました。 また、NHKスペシャルの大型シリーズ「社会主義の20世紀」や「アインシュタインロマン」、「映像の世紀」などは、テレビ番組の新たな地平を拓くもので、企画開発の発想や手腕はその後の番組開発のあり方にも大きな影響を与えることになりました。	
	アオキ シュウイチ 青木 秀一 (41歳)	東京都	日本放送協会 放送技術 研究所 伝送システム 研究部 研究員	情報処理学会 情報規格 調査会 国際規格開発賞 H28 他 4件	【MMT技術を用いた放送システムの開発および標準化】 2016年8月に開始した4K・8K衛星試験放送「スーパーハイビジョン」における映像・音声等を多重伝送するためのメディアトランスポート方式MMT (MPEG Media Transport) の開発および標準化に寄与され、その実用化に貢献されました。MMT方式は、放送と通信など複数の伝送路でコンテンツを分割伝送し、受信機で同期合成させることが可能な、発展性の高い技術方式で、世界で初めて日本の4K・8K放送システムで採用されました。 MMT方式については、ISO/IECの国際標準を決めるMPEGで議論が開始され、当初から放送への応用を考慮した提案活動を行いました。低遅延での映像・音声の packets 化、映像・音声の高精度同期、伝送の高効率化などの手法を考案し、これらの機能を実装した機器を開発して動作を実証することでMPEGでの標準化を先導されました。この成果が、ARIBやITU-Rでの4K・8K放送システムの標準化にも大きく寄与し、試験放送の開始に貢献されました。	
	カワムラ ヌウキ 河村 侑輝 (31歳)	神奈川県	日本放送協会 放送技術 研究所 伝送システム 研究部 研究員	NHK会長賞（団体） H27	◎青木氏は、 MPEGにおける標準化に課題抽出段階より参加し、他国からの参加者と粘り強く議論を重ね、日本の放送サービスに必要な数々の仕様提案を行い、規格文書に反映されました。また日本で検討が進められていた4K・8K放送のロードマップも考慮し、規格文書の作成を先導し、MMT方式の早期の標準化に大きく貢献されました。 ◎河村氏は、 標準化された技術に対応した、コンテンツ送出用のMMT対応ストリーマーやMMTストリームのエラーを特定するMMT対応解析装置、MMT対応受信機などの機器開発を先導するなど、MMT方式を用いた放送システムの実用化を推進し、放送と通信の連携した新しいメディア社会の実現にきわめて大きな功績をあげられました。	
	オオツキ カズヒロ 大槻 一博 (45歳)	東京都	日本放送協会 放送技術 研究所 伝送システム 研究部 上級研究員	NHK会長賞（団体） H27 他 2件	◎大槻氏は、 国内標準化において、特にMMT方式によるマルチメディアサービスのためのアプリケーション伝送方式に関して規格文案の作成から規格会議における議論の先導に大きく寄与するなど、MMT方式を用いた放送システムの実用化を推進し、放送と通信の連携した新しいメディア社会の実現にきわめて大きな功績をあげられました。	

推薦機関	氏名（年齢）	住所	職歴等	表彰歴	功績概要	備考
（一社） 電気通信事業者協会	カウ ハルヒサ 加藤 晴久 (42歳)	埼玉県	(株)KDDI総合研究所 ソフトウェアインテグレーショングループ 研究マネージャー	映像情報メディア学会 技術振興賞進歩開発賞 (研究開発部門) H28 他 9件	【拡張現実感アプリ「SATC（サッチ）」の研究開発と実用化】 商品やTV CM、てのひら等を、携帯端末により画像認識する技術の開発により、実空間とWeb空間との連携及び放送と通信との連携を実現させ、拡張現実感（AR：Augmented Reality）サービスの普及と高度化に大きく貢献されました。本技術を搭載したアプリは、2012年3月に世界初のモバイルARビューア（アプリ名：SATC Viewer）として商用導入されています。 本技術では、画像特徴量分布の最適化等により、従来は認識できなかった物体、特に立体物の認識を実現されました。また、端末の動きに応じた追跡手法の動的切替により、大幅な高速化と高精度化を両立させ、携帯端末でのリアルタイム動作を可能としました。さらに、オーサリングツールや開発キット等を無償公開することでARの普及を促進し、ARによる作業支援等への活用にも新たな道を拓かれました。	
	キタザキ フオ 北崎 修央 (42歳)	神奈川県	KDDI(株) 戦略推進部 マネージャー		◎加藤氏は、 日常的に仮想情報が現実へ重畳される世界を見据えて、SATCの開発以前からモバイルARの研究に取り組み、SATCの立ち上げ時から現在に至るまで新機能拡張と性能向上の技術開発を主導されました。特に、手のひら認識技術並びにARコンテンツ表現技術の研究開発を推進し、携帯端末においても性能を大幅に向上させ、SATCの実現に大きく貢献されました。	
	マツモト マサアキ 松本 正明 (46歳)	東京都	KDDI(株) 運用企画部 課長補佐		◎北崎氏は、 AR技術を使ったビジネス開発に従事し、B2B2Cの現行ビジネスモデルを確立させました。多企業とのアライアンスにより、多くのエンドユーザにARを使ったユースケースを体験いただくことで、同技術の普及、一般化に貢献されました。またAR技術を他社へライセンスすることにより新たなサービスを開発されるなど、同技術の応用・発展に貢献されました。 ◎松本氏は、 AR関連技術に関するKDDI研究所の研究開発に着目し、黎明期のプロトタイプや試験サービスへ適用するためのシステム要件定義を行い、技術開発の提案を行われました。また、プロトタイプでの問題の洗い出しや試験サービスの結果を商用システム構築にフィードバックすることにより、その技術の進歩・発展に貢献されました。	
	イトウ サカリ 伊藤 盛 (38歳)	千葉県	KDDI Summit Global Myanmar, Co., Ltd. 出向 マネージャー		◎伊藤氏は、 AR黎明期以前から同技術の可能性を見出し、国内外のベンチャー企業のビジネスモデルと技術動向を踏まえ、国内普及のためのユースケース・ビジネスモデルの検討を行い、現在のサービスの原型を構築されました。また、ベンチャー企業との提携やSDKの無償配布などを通じて、同技術の普及、推進に貢献されました。	
	コバヤシ タツヤ 小林 達也 (31歳)	東京都	(株)KDDI総合研究所 ソフトウェアインテグレーショングループ 研究主査	情報処理学会AVM研究会 2015年度AVM賞優秀賞 H28 他 1件	◎小林氏は、 2013年に任意の画像を高速・高精度にトラッキング可能な画像解析アルゴリズムを考案・実装し、処理能力の乏しい初期のスマートフォン端末でリアルタイムに動作可能なマーカースレスAR技術の商用化を実現されました。2014年には、3Dレンダリング技術の応用により仮想的に生成した多視点画像から頑健な画像特徴量を自動抽出することで、同画像解析技術を任意形状の3D物体トラッキングに拡張し、3D物体に対するリアルタイムマーカースレスAR技術の商用化も実現する等、SATCの要素技術確立に貢献されました。	

推薦機関	氏名（年齢）	住所	職歴等	表彰歴	功績概要	備考
日本ITU協会 (一財)	オビ トシオ 小尾 敏夫 (69歳)	東京都	早稲田大学大学院 アジア太平洋研究科 教授	日本ITU協会 総務大臣賞（人材育成） H27	<p>【文化振興】</p> <p>30年に及ぶITU活動への参加に加え、ICT人材育成プロジェクトであるCoE（Center of Excellence）におけるアジア太平洋地区運営委員会議長を創設時から12年間務められ、クロスボーダーの共通研修ネットワークの構築やコースウェア標準モデルの策定等に大きく貢献されました。</p> <p>また、世界で初めてITUと早稲田大学の人材教育及び標準化分野の協力関係の包括的MOUを交わし、その受け皿として同大学にITU-早稲田ICTセンターを設立し、初代室長としてITU幹部の招聘、途上国向け技術セミナーの開催、標準化人材育成など多彩なITU支援活動を行い、現在の「アカデミア会員制度」のベースを築かれました。</p> <p>ITU活動のほか国際CIO学会の設立発起人として同学会の設立に主導的役割を果たされるとともに、会長、世界会長職に就任し、グローバルな連携活動に邁進されるなど、我が国の産官学の架け橋として貢献されています。</p>	
日本民間放送連盟 (一社)	タムラ シンイチ 田村 信一 (70歳)	東京都	(元)日本テレビ放送網 ㈱取締役専務執行役員	第55回電気通信協会賞 H26	<p>【事業業績】</p> <p>日本テレビ放送網において、デジタル化・HDTV化を実現したほか、緊急報道に欠かせないSNGシステムを早期配備するなど、放送技術の高度化を推進されました。</p> <p>テレビ放送のデジタル化には、地上／衛星デジタル放送方式の策定段階から長期間にわたって携わり、数多くの重要課題に取り組み、円滑なデジタル移行を完遂されました。</p> <p>民放連では、「技術委員会」「テレビ回線委員会」「地上デジタル放送特別委員会」等の委員を歴任され、特に、データ放送黎明期の普及活動、700MHz帯の周波数再編、放送設備の安全・信頼性の向上などの重要課題に対し、部長、小委員長といった指導的立場での確に対処し、放送界の発展に多大な業績を残されました。</p> <p>また、総務省情報通信審議会の専門委員会等に参画し、放送・通信分野の技術基準策定に尽力したほか、「全国地上デジタル放送推進協議会」技術部会の副部長等を務め、地上デジタル放送の実現・発展に大きく寄与されました。</p>	
電波産業会 (一社)	富士通 80GHz高速無線伝送システム開発グループ			第24回電波産業会電波功績賞 会長表彰 H25	<p>【80GHz帯高速無線伝送システムの開発・実用化】</p> <p>活用が進んでいなかった80GHz帯に対応したE-bandインパルス方式を開発することにより、単一の無線システムで光ファイバ並の低遅延ギャランティ型伝送を可能とするとともに、回路構成をシンプルにすることにより、小型(3L、3kg)、低消費電力(30W)、高回線品質を実現されました。この技術開発により、複数の無線送受信装置を必要とする大規模な従来システムから1台の小型無線送受信装置で数Gbpsが伝送可能で設置が容易なシステムになりました。この無線伝送システムを活用することで、都市内で光ケーブルの敷設困難な地域(河川・湾間、山間部など)や、災害対策として無線化する区間などに設置が可能になり、電波を有効に利用した高速無線伝送システムの実用化に大きく貢献されました。</p>	
日本ケーブルテレビ連盟 (一社)	モリ シュウイチ 森 修一 (68歳)	東京都	(元)㈱ジュビターテレコム 代表取締役社長・会長	日本ケーブルテレビ連盟、日本CATV技術協会「ケーブルテレビ功労者表彰」 H27	<p>【事業業績】</p> <p>住友商事㈱では、機電システム本部長等として、長きにわたり情報通信、電機、機械関連の機器・システムの販売等に携わるとともに、光ファイバー幹線網の整備等に取り組み、ケーブルテレビによるインターネットサービスの普及促進に尽力されました。</p> <p>㈱ジュビターテレコムでは、タブレット等と連携して、いつでもどこでもテレビが視聴可能なスマートテレビサービスを導入し、さらに新コンセプト(J:COM everywhere)を導入し、お客さまサポートの充実等を図るとともに、電力小売り等の革新的なサービス投入で同社の業容を大きく拡大させる一方で、業界全体のサービスの高度化を先導し、業界の飛躍的な発展に貢献されました。</p> <p>さらに、連盟副理事長及び業界最大手事業者の社長・会長として、総務省管轄の「ケーブル・プラットフォームWG」の委員に就任し、業界初の4K実用放送の実現等に貢献されました。また、東日本大震災時においては、被災地域への細やかな情報発信や設備復旧技術要員の派遣等、社会貢献分野でも特筆される実績を挙げられました。</p>	